

2025 年度 企業アンケート結果について

1. 対象企業数：

本学卒業生の就職実績のある企業 1,178 社 （回答 370 社）

2. 実施期間：

2026 年 3 月 2 日（月）～3 月 16 日（月）

3. 目的

本学のキャリア教育等へ反映させ教育改善へ役立てることを目的とする。

【問い合わせ先】

東京電機大学

学生支援センター（キャリア支援・就職担当）

IR センター

Q1. 貴社の業種分類についてお答えください。

Q2. 最近（目安 4～5 年の間）貴社に入社した本学卒業生はいますか。

Q3. 最近（目安 4～5 年の間）貴社を退職した本学卒業生はいますか。

Q4. 最近（目安 4～5 年の間）貴社に入社した本学卒業生について、貴社が求める人材像との比較において以下の能力等はどのように感じられますか。1～5 の該当する番号を選択ください。

- a.コミュニケーション能力 b.意欲・積極性 c.基礎的な知識・技術 d.応用力・想像力
e.日本語力・文章力 f.論理的思考 g.語学力 h.問題解決能力・実行力
i.ストレス耐性・粘り強さ
5：高い 4：やや高い 3：ふつう 2：やや低い 1：低い

Q5. 上記 4 に関連し、本学でより充実するとよいと思われる教育はどのようなものですか。
当てはまるものすべてにチェックしてください。

- ① コミュニケーション能力の育成 ② 課題解決型教育
③ 研究成果発表などプレゼン能力 ④ 専門ソフト等のスキルアップ
⑤ より実践的な実験・実習 ⑥ 一般常識・教養教育 ⑦ グループワーク
⑧ キャリア教育 ⑨ インターンシップ ⑩ 資格取得支援 ⑪ 英語教育
⑫ 日本語力・文章力 ⑬ メンタルトレーニング ⑭ その他

※上記 5 でチェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

Q6. 最近（目安 4～5 年の間）の本学卒業生について特に感じる傾向等がありますか。
当てはまるものすべてにチェックしてください。

- ① まじめで手堅い ② 素直で指示によく従う ③ 協調性がある
④ リーダーシップがある ⑤ 勉強熱心で向上心が高い ⑥ 同窓のつながりが強い
⑦ 積極的で主体性がある ⑧ 競争意識が高い ⑨ メンタル的に強い ⑩ その他

※上記 6 でチェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

Q7. 最近（目安 4～5 年の間）の本学卒業生についての満足度をお伺いします。

- ① 大変満足 ② おおむね満足 ③ 満足ではない

Q8. 社会人として必要な能力育成の観点から特に役立つと思われる正課外の大学生活での経験等がありますか。当てはまるものすべてにチェックしてください。

- ① アルバイトなどの社会人経験 ② 学生団体・部活・サークル活動
③ グループ・団体等でのリーダー体験 ④ ボランティア活動
⑤ イベント等の企画・運営 ⑥ 社会人との交流 ⑦ コンテスト・競技会等への参加
⑧ 趣味等のコミュニティーへの参加 ⑨ 留学等の海外体験 ⑩ その他

Q9. 本学がディプロマサプリメント※を発行することを希望しますか。

（※学生が取得した学位・資格の学修内容について大学が証明する説明文書です）

- ① 希望する ② 希望しない ③ どちらでもよい

Q10. いわゆる成績証明書以外に成績の補足として期待する情報がありましたらご選択ください。

- ① 卒業要件 ② 学修到達度 ③ TOEIC 等の外部試験の成績 ④ 免許・資格情報
⑤ その他

【次世代研究者挑戦的研究プログラム（博士(後期)課程 SPRING）における社会ニーズ調査項目】

Q11. 過去 5 年の博士課程(後期)修了者の採用状況について教えてください。

- ① 毎年採用している ② 採用する年もある ③ 採用していない

Q12. 博士課程（後期）修了者の在籍状況について教えてください。

- ① 在職者数は年々増加している ② 在職者数は変わらない
③ 在職者数は減少している ④ 在籍していない

Q13. 博士課程(後期)修了予定者の採用計画について教えてください。

- ① 採用数を増やす予定である ② 採用数に変更はない ③ 採用数を減らす予定である
④ 採用予定はない ⑤ わからない

Q14. 今後の博士課程(後期)修了予定者の採用予定方法について教えてください。

- ① 博士課程(後期)修了予定者に限定した枠組みで募集する
② 学歴に関係なく新卒枠で募集する
③ 博士課程(後期)修了予定者の採用予定はない
④ その他（ ）

Q15. 博士課程(後期)のインターンシップ等の実施状況について教えてください。

- ① 文部科学省ジョブ型研究インターンシップを実施している
② 博士課程(後期)学生に特化して 1-3 日間程度受け入れる形式で実施している
③ 博士課程(後期)学生に特化して 5-10 日間程度受け入れる形式で実施している
④ 博士課程(後期)学生に特化して 2 週間－ 1 か月程度受け入れる形式で実施している
⑤ 博士課程(後期)学生に特化して長期間（1 か月以上）受け入れる形式で実施している
⑥ 学部・修士課程学生と同じ枠組みで受け入れる形式で実施している
⑦ 博士課程(後期)の受け入れについては個別に対応している
⑧ 博士課程(後期)学生は受け入れる予定はない
⑨ その他（ ）

Q16. 社員に博士号取得を勧めていますか？

- ① 勧めている ② 勧めてはいない

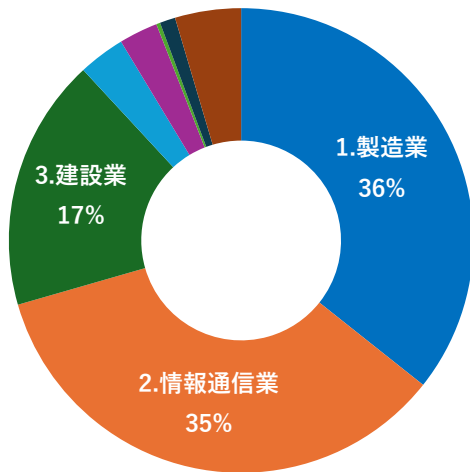
Q17. 社員の博士号取得をサポートする制度がありますか？

- ① 有（具体的内容： ） ② 無

Q18. 上記項目で「有」と回答された方は具体的な内容を教えてください。

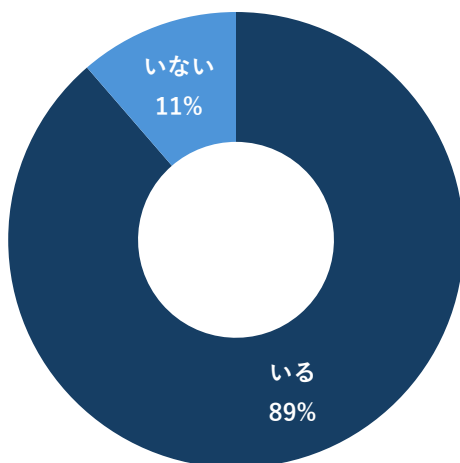
Q19. その他、本学や本学学生についてご意見やご要望などがあれば自由にご記入ください。

Q1. 貴社の業種分類についてお答えください。



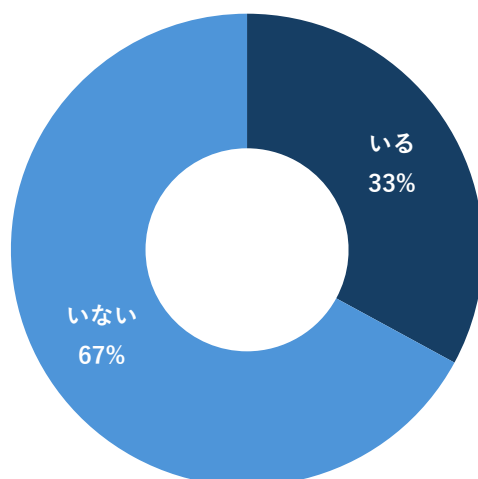
業種	回答企業数
1.製造業	132
2.情報通信業	129
3.建設業	65
4.商社	12
5.サービス	10
6.輸送	1
7.不動産	4
8.その他	17
総計	370

Q2. 最近（目安 4～5 年の間）貴社に入社した本学卒業生はいますか。



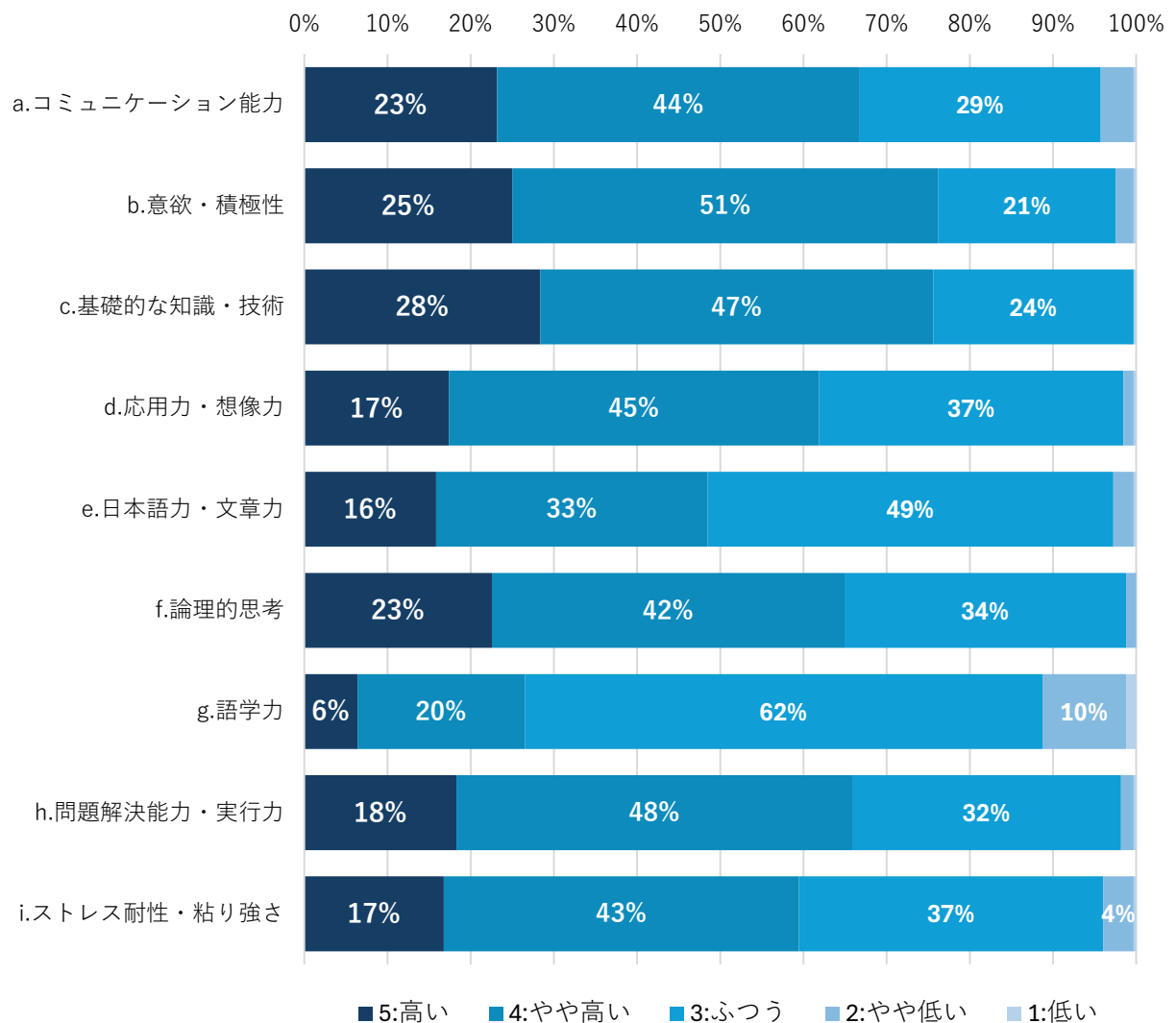
	いる	いない	総計
1.製造業	122	10	132
2.情報通信業	109	20	129
3.建設業	60	5	65
4.商社	9	3	12
5.サービス	10	0	10
6.輸送	1	0	1
7.不動産	3	1	4
8.その他	14	3	17
総計	328	42	370

Q3. 最近（目安 4～5 年の間）貴社を退職した本学卒業生はいますか。



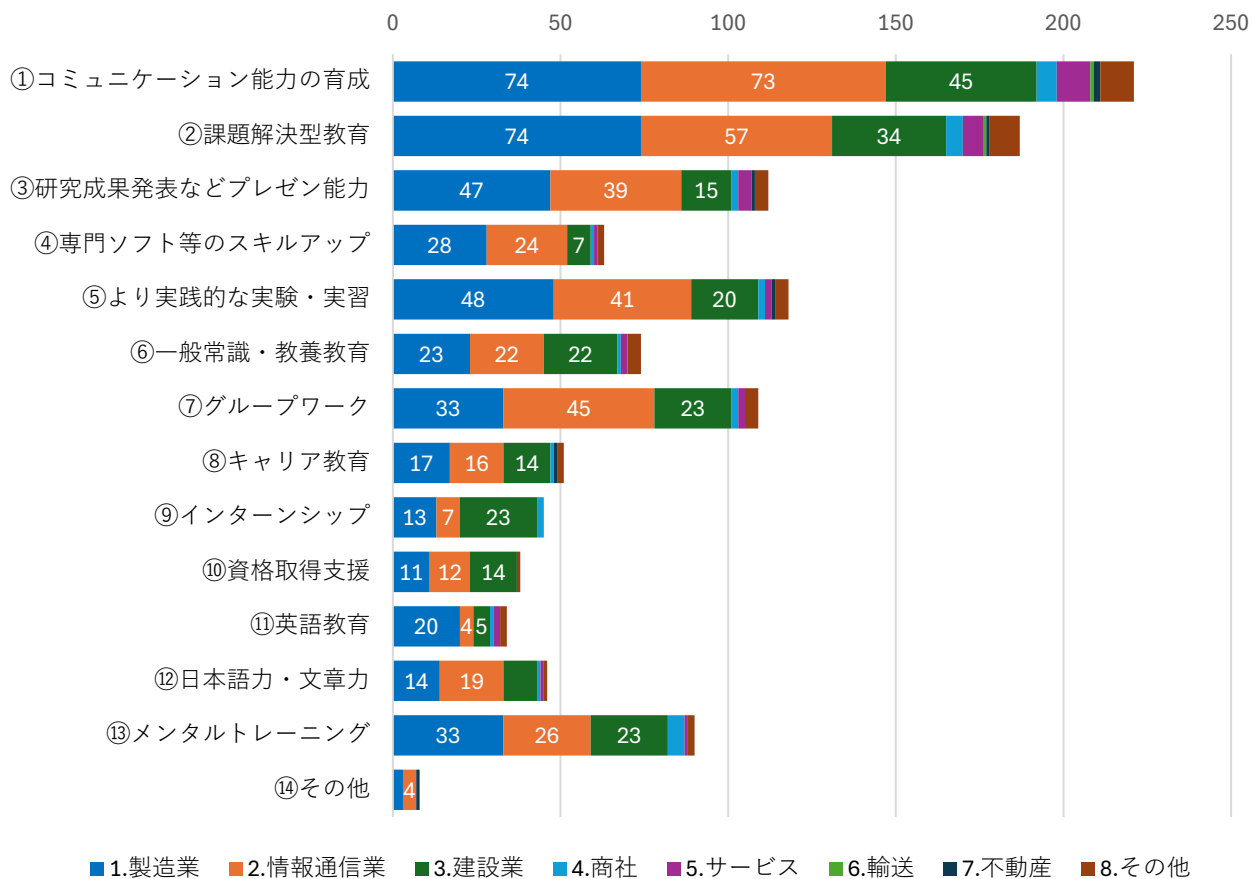
	いる	いない	総計
1.製造業	39	83	122
2.情報通信業	38	71	109
3.建設業	21	39	60
4.商社	0	9	9
5.サービス	3	7	10
6.輸送	0	1	1
7.不動産	2	1	3
8.その他	5	9	14
総計	108	220	328

Q4. 最近（目安4～5年の間）貴社に入社した本学卒業生について、貴社が求める人材像との比較において以下の能力等はどのように感じられますか。

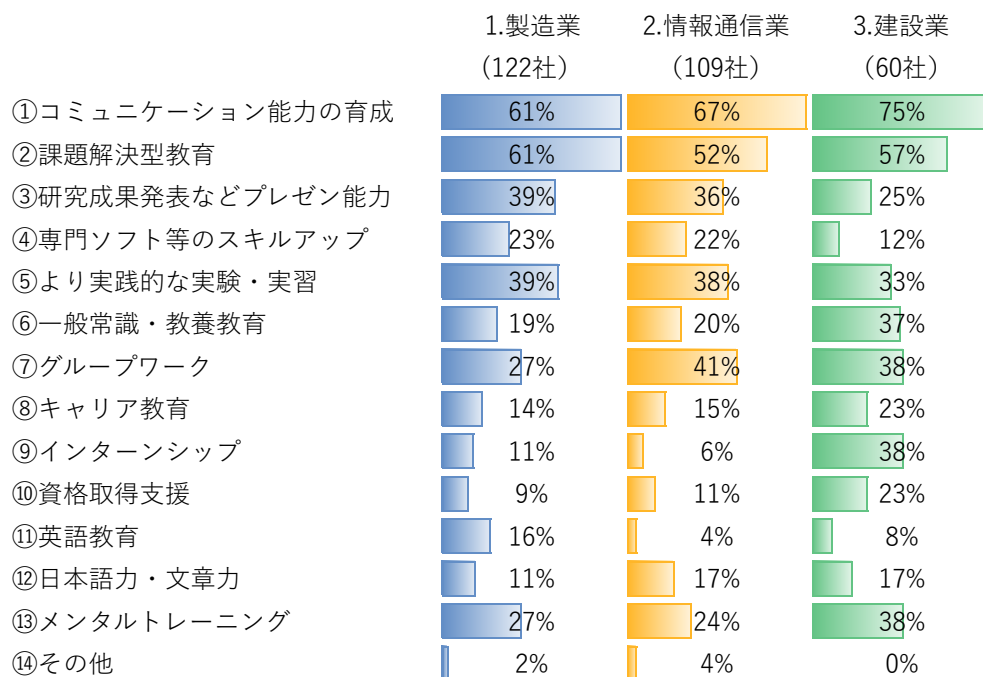


	5:高い	4:やや高い	3:ふつう	2:やや低い	1:低い	総計
a.コミュニケーション能力	76	143	95	13	1	328
b.意欲・積極性	82	168	70	7	1	328
c.基礎的な知識・技術	93	155	79	0	1	328
d.応用力・想像力	57	146	120	4	1	328
e.日本語力・文章力	52	107	160	8	1	328
f.論理的思考	74	139	111	4	0	328
g.語学力	21	66	204	33	4	328
h.問題解決能力・実行力	60	156	106	5	1	328
i.ストレス耐性・粘り強さ	55	140	120	12	1	328

Q5. Q4.に関連し、本学でより充実するとよいと思われる教育はどのようなものですか。
当てはまるものすべてにチェックしてください。(複数回答)

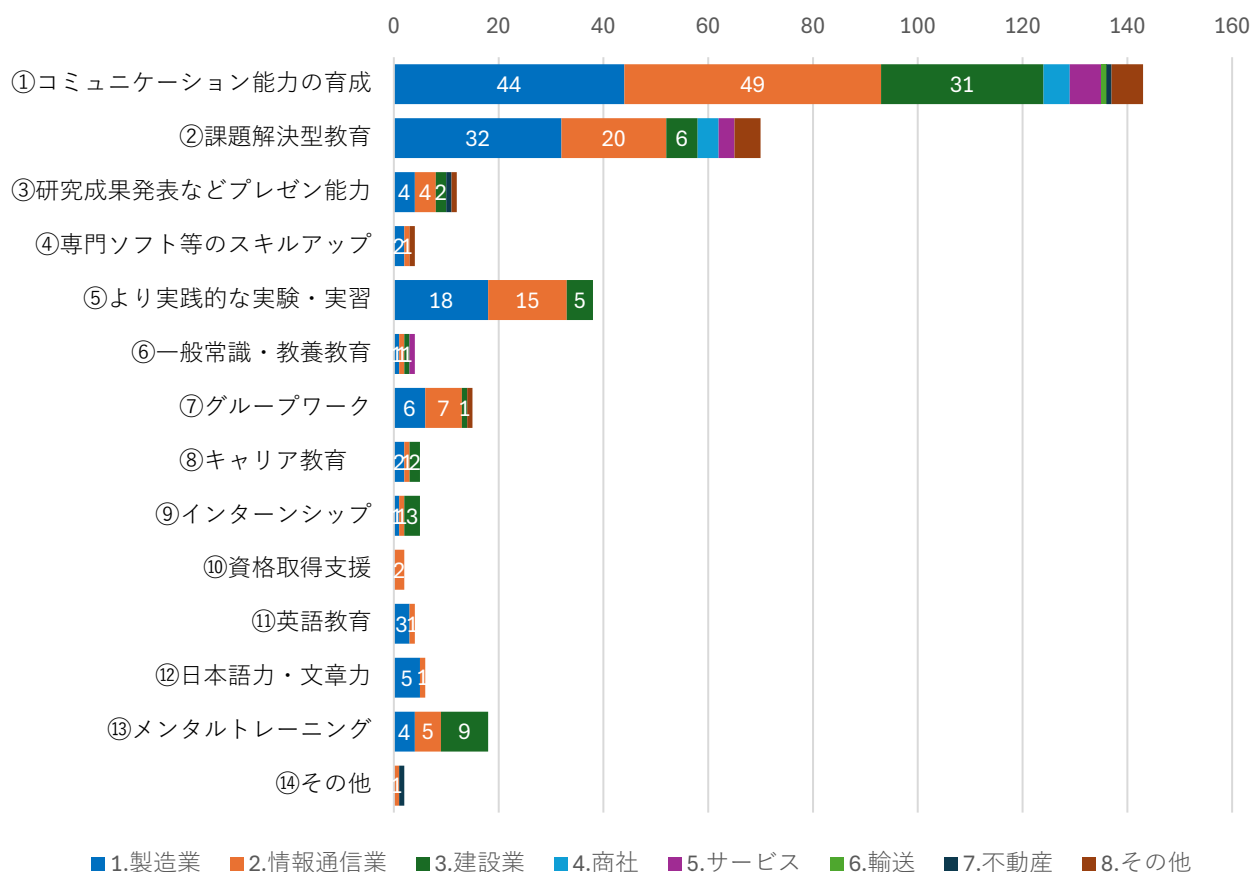


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況

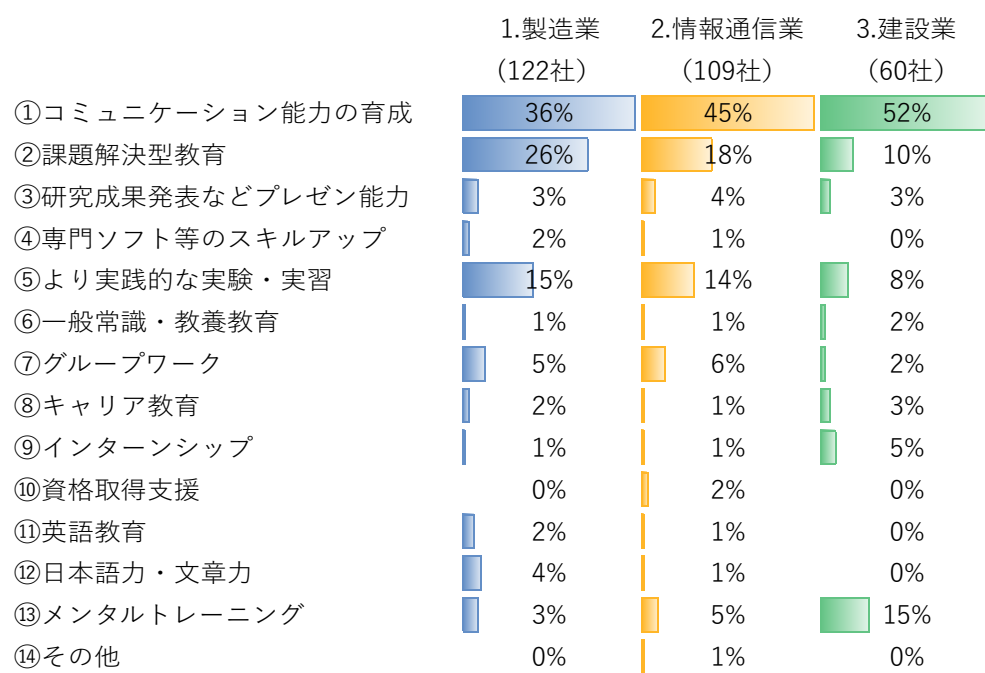


製造業と情報通信業は概ね同傾向であるが、「⑦グループワーク」に関しては情報通信業の回答が約 1.5 倍多い。一方、建設業はこれら二業種とは異なる傾向を示しており、「⑥一般常識・教養教育」および「⑧キャリア教育」の回答が多い反面、「④専門ソフト等のスキルアップ」の回答は非常に少ない。

※ Q5 チェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

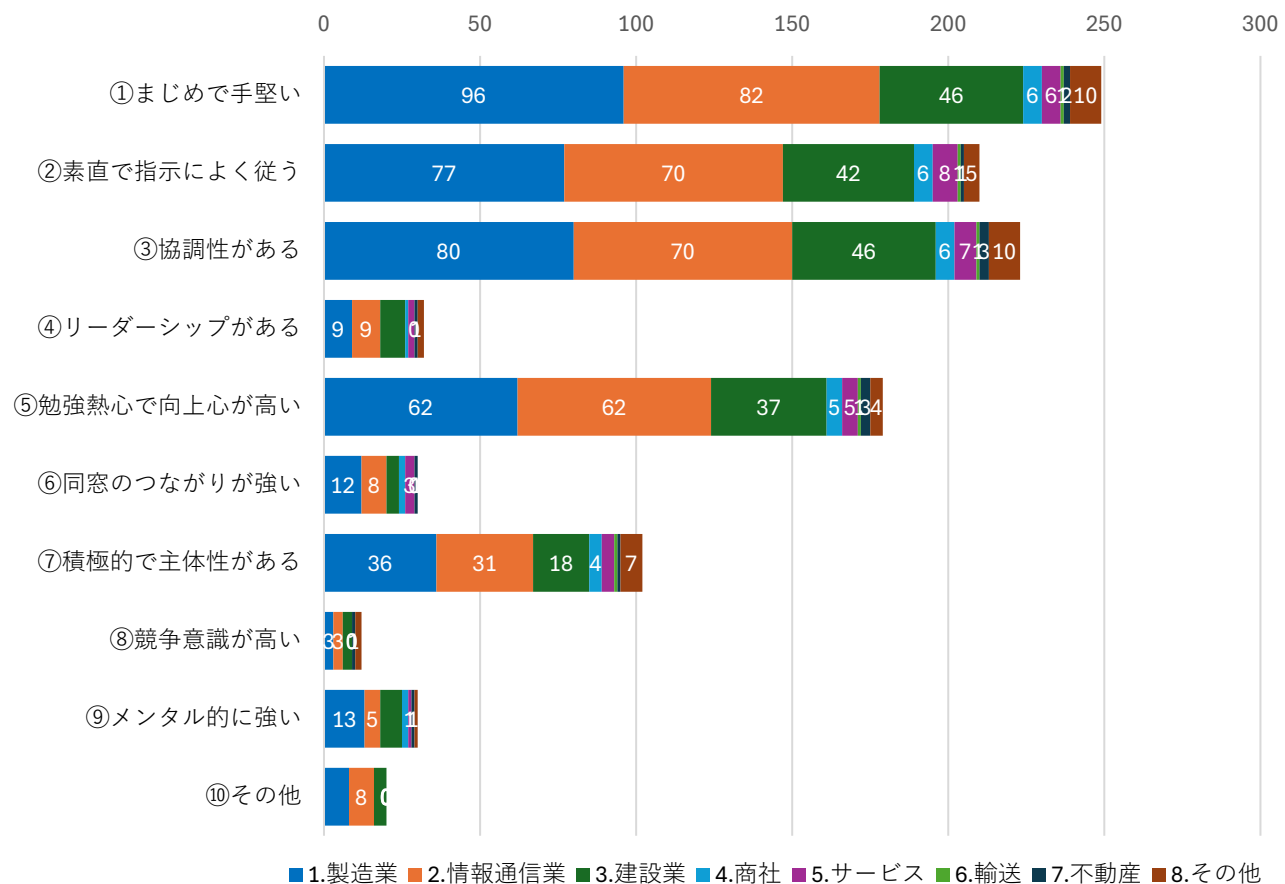


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況

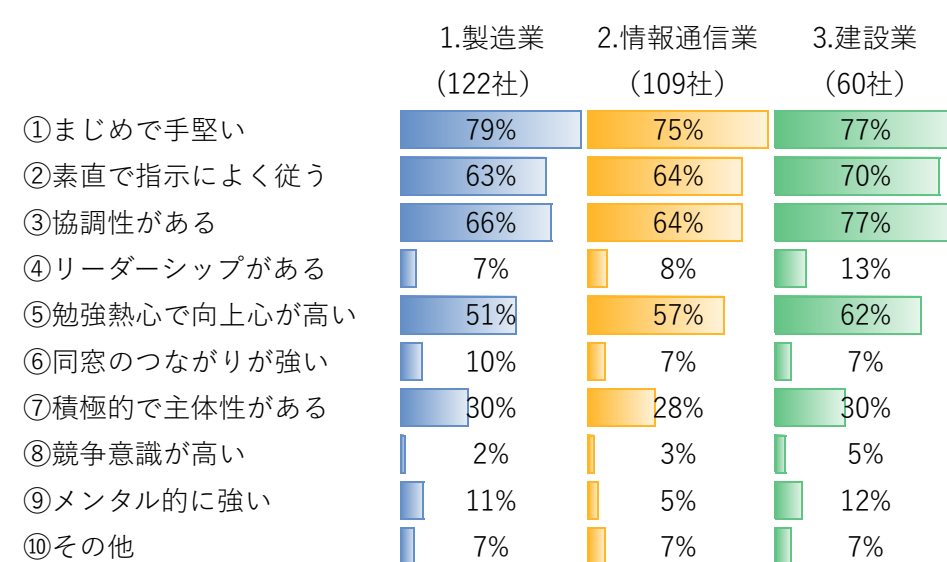


複数回答ではなく、一番重要な項目として回答した場合、「①コミュニケーション能力の育成」がいずれの業種においても最も多く選択されている。建設業では他の二業種と比較して「⑬メンタルトレーニング」の回答が多い一方、「⑤より実践的な実験・実習」の回答が少ない点が特徴的である。

Q6. 最近（目安4～5年の間）の本学卒業生について特に感じる傾向等がありますか。
当てはまるものすべてにチェックしてください。（複数回答可）

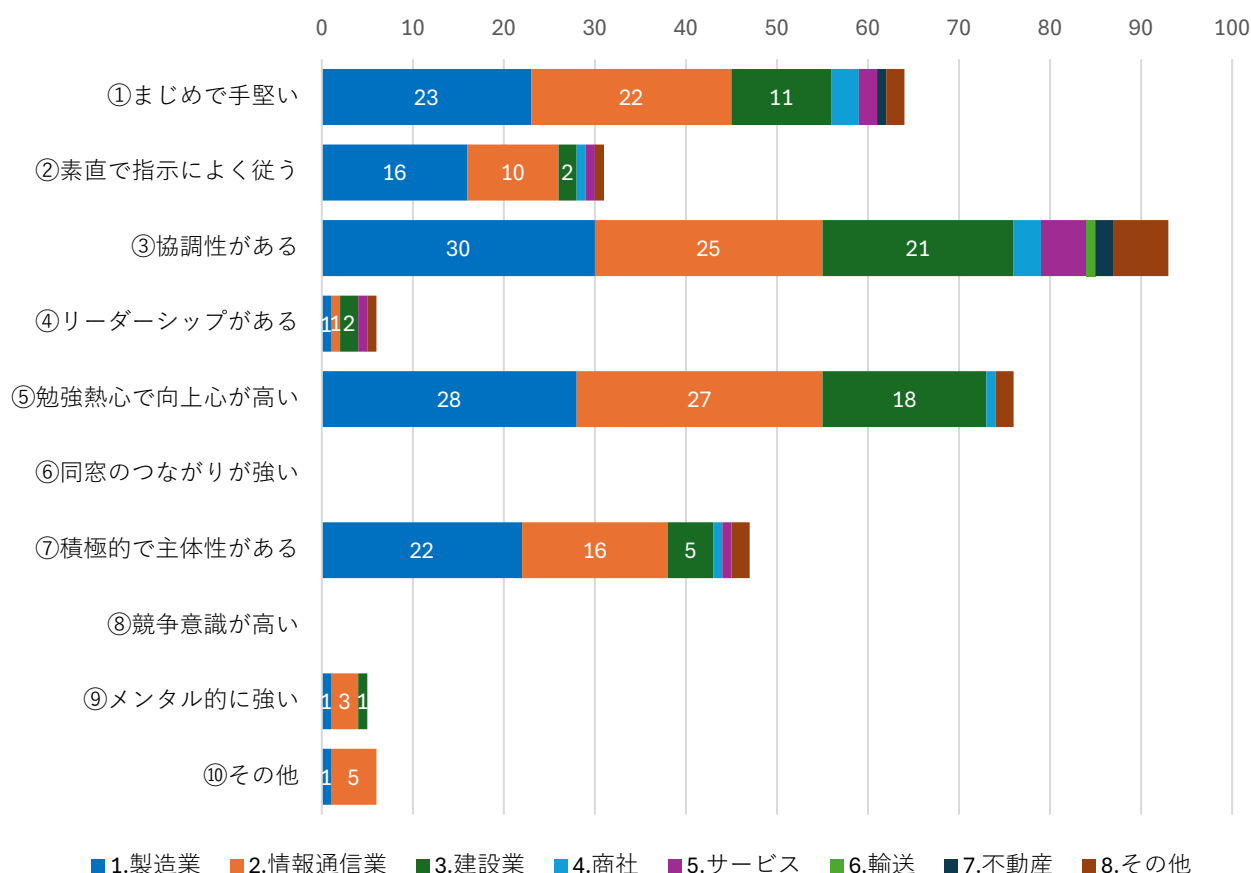


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況

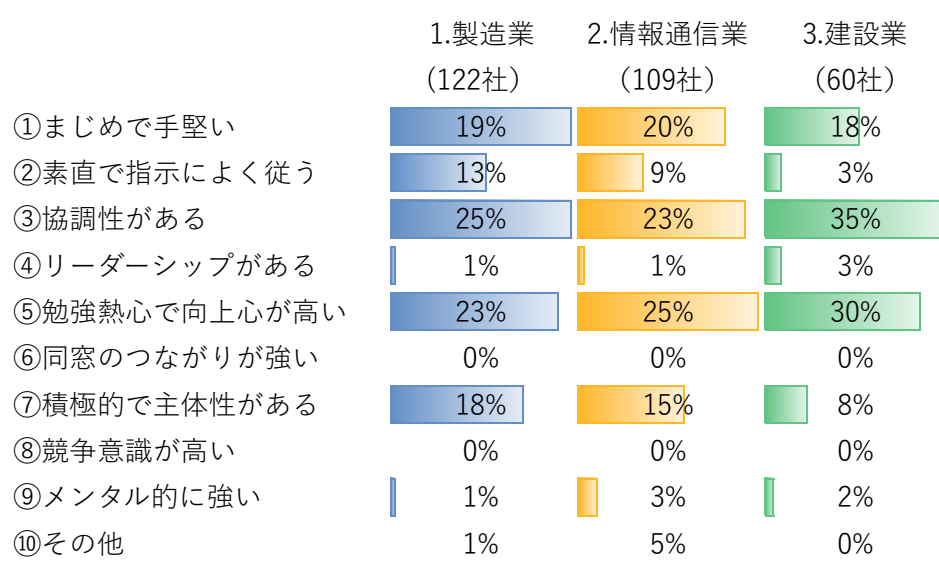


「①まじめで手堅い」は、すべての主な業種において最も多く回答された項目である。業種間による大きな差は概ね見られないものの、建設業における「④リーダーシップがある」の項目は他の業種と比較して多い点が特徴的である。

※ Q6 でチェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

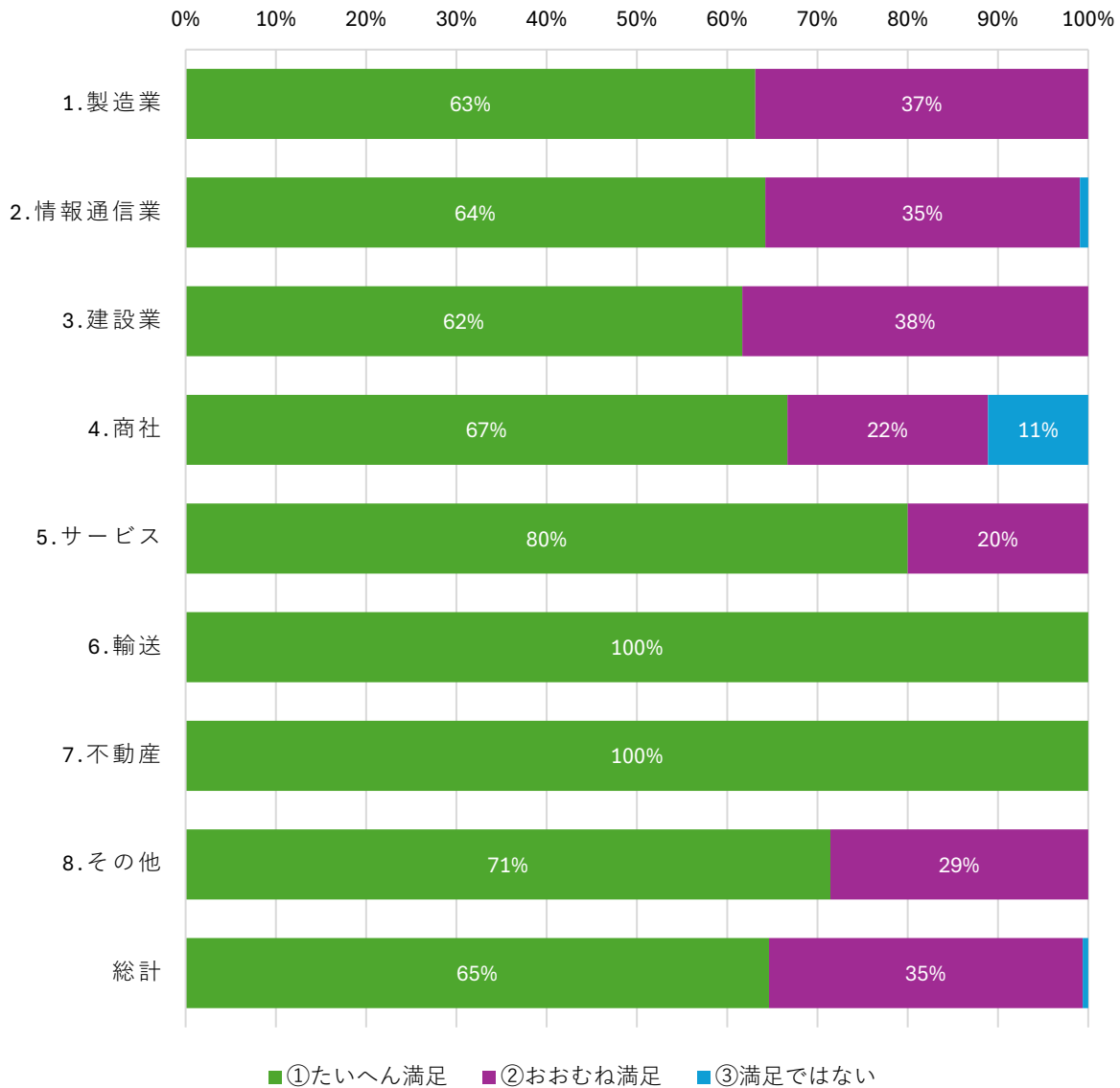


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況



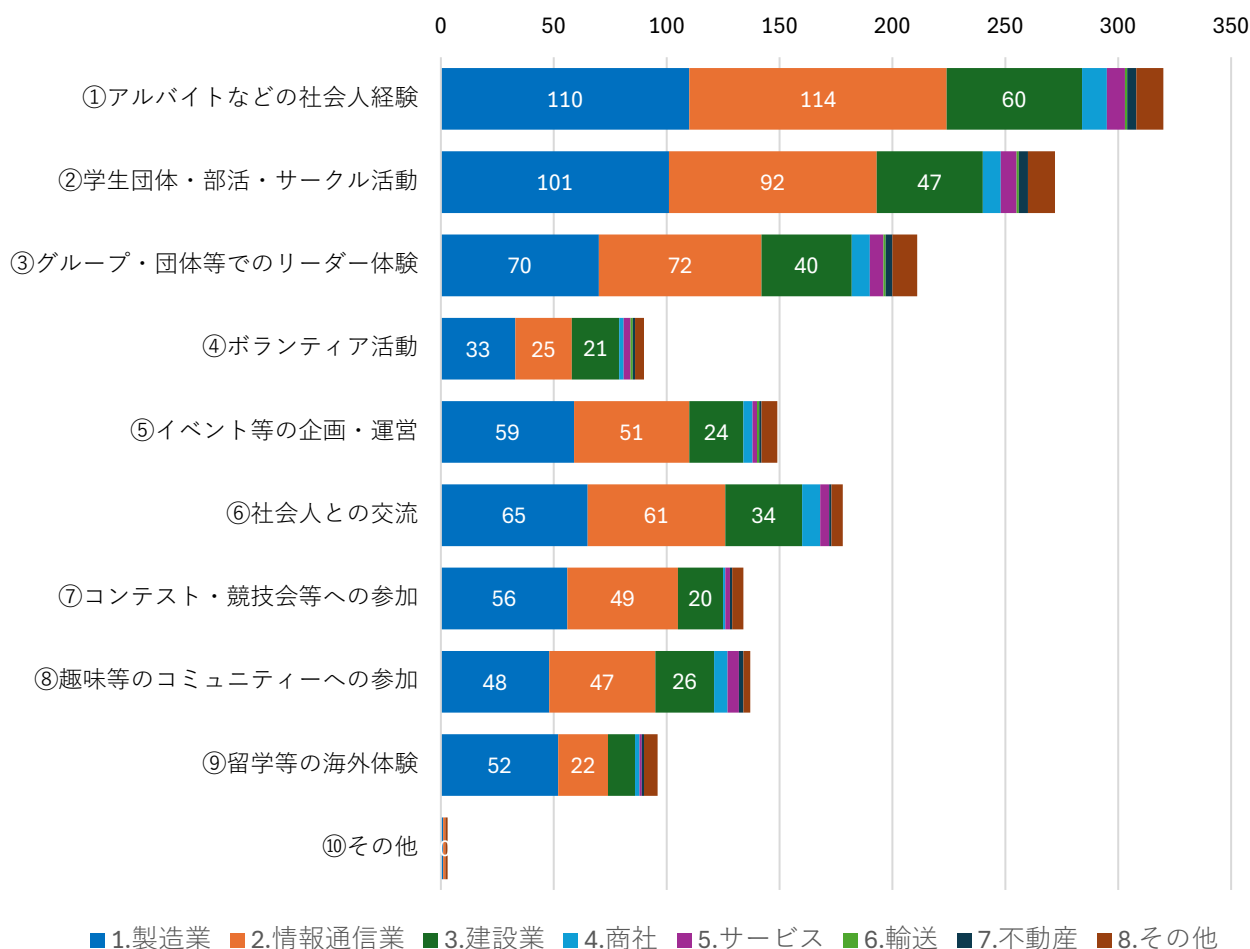
複数回答ではなく、一番重要な項目として回答した場合、複数回答時の傾向と比例せず、「③協調性がある」に最も多くの回答が集まり、次いで「⑤勉強熱心で向上心が高い」が多い。業種間における各項目の割合の差はおおむね1~4%程度であるが、建設業における「②素直で指示によく従う」は、他の業種と比較し約9%低い一方で、「③協調性がある」は約10%高く、建設業と他の二業種との違いが見受けられる。

Q7. 最近（目安4～5年の間）の本学卒業生についての満足度をお伺いします。

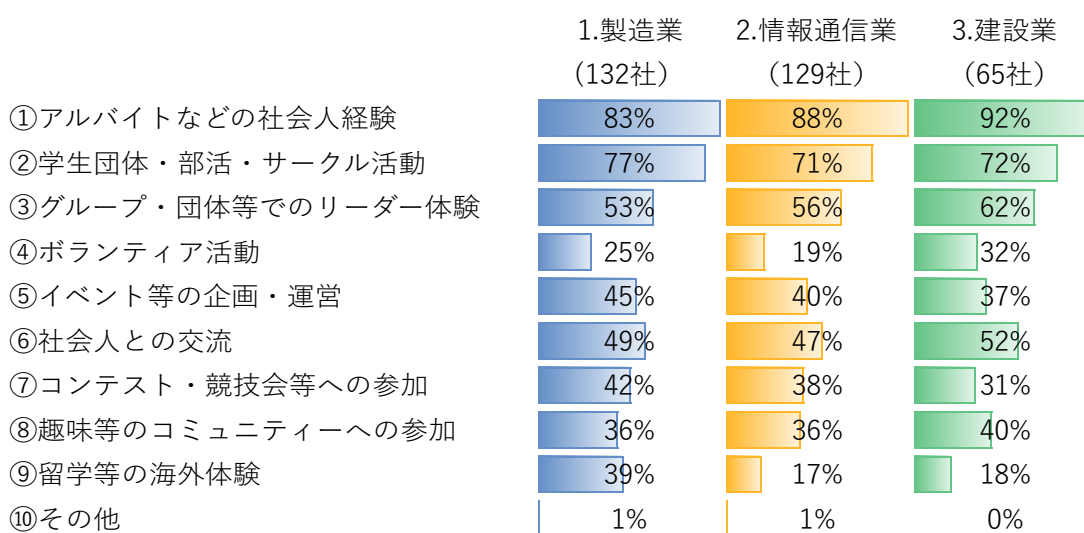


	①たいへん満足	②おおむね満足	③満足ではない	総計
1.製造業	77	45	0	122
2.情報通信業	70	38	1	109
3.建設業	37	23	0	60
4.商社	6	2	1	9
5.サービス	8	2	0	10
6.輸送	1	0	0	1
7.不動産	3	0	0	3
8.その他	10	4	0	14
総計	212	114	2	328

Q8. 社会人として必要な能力育成の観点から特に役立つと思われる正課外の大学生活での経験等がありますか。当てはまるものすべてにチェックしてください。（複数回答）

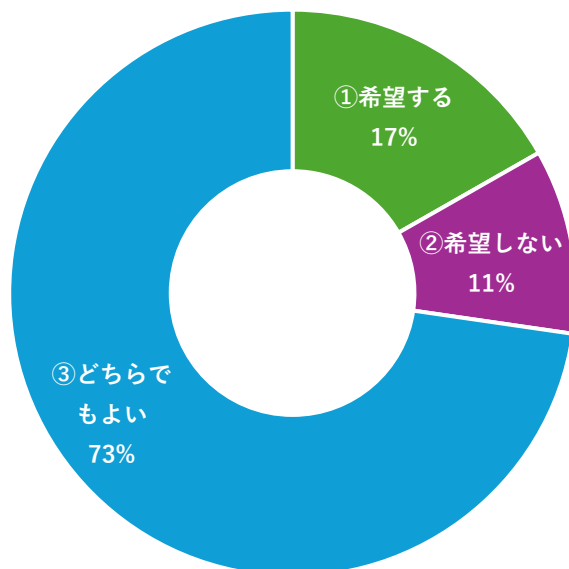


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況



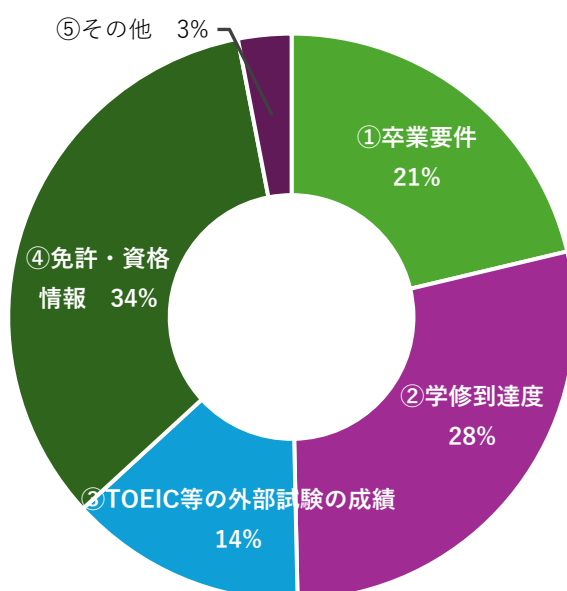
主な業種別に見ると、製造業では「⑨留学等の海外体験」が他の主な業種と比較して約 20% 高い。建設業では、「③グループ・団体等でのリーダー体験」「⑥社会人との交流」「⑧趣味等のコミュニティーへの参加」といった、他者との関わりを重視する点が特徴的である。

Q9. 本学がディプロマサプリメント※を発行することを希望しますか。
(※学生が取得した学位・資格の学修内容について大学が証明する説明文書)



※回答数 370 社

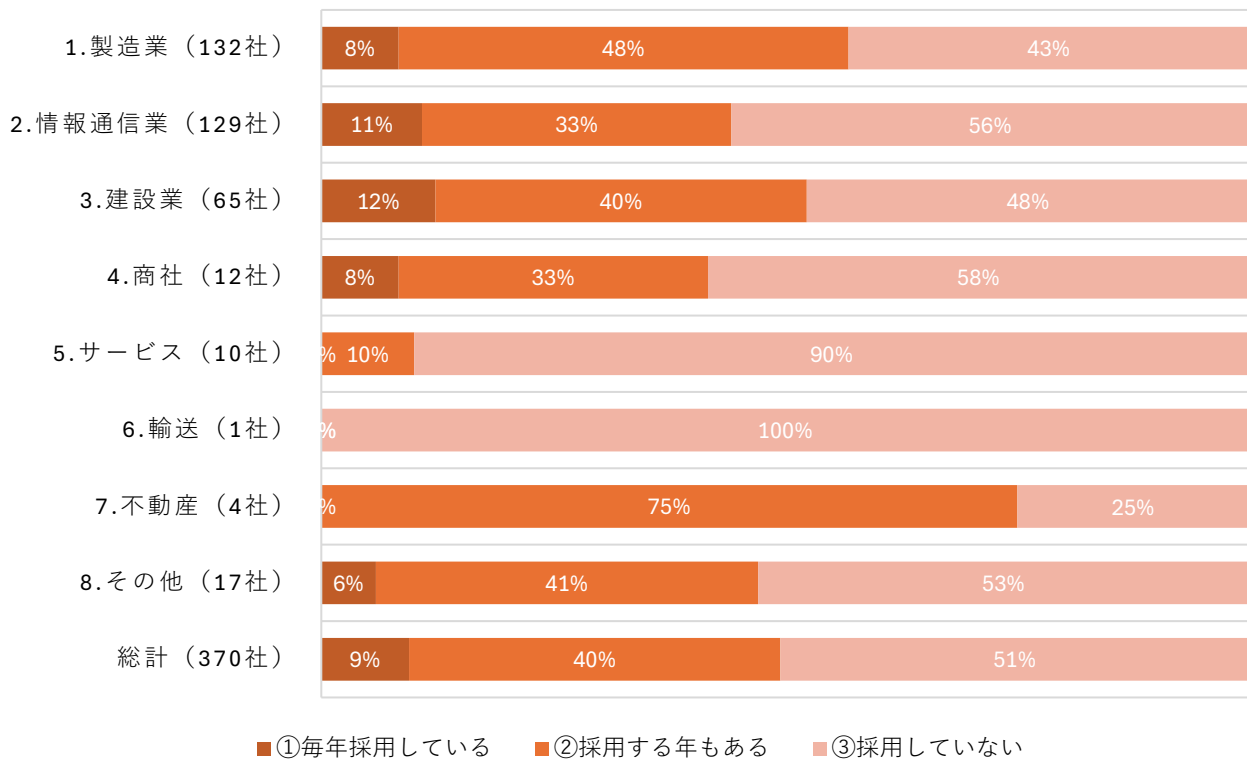
Q10. いわゆる成績証明書以外に成績の補足として期待する情報がありましたらご選択ください。



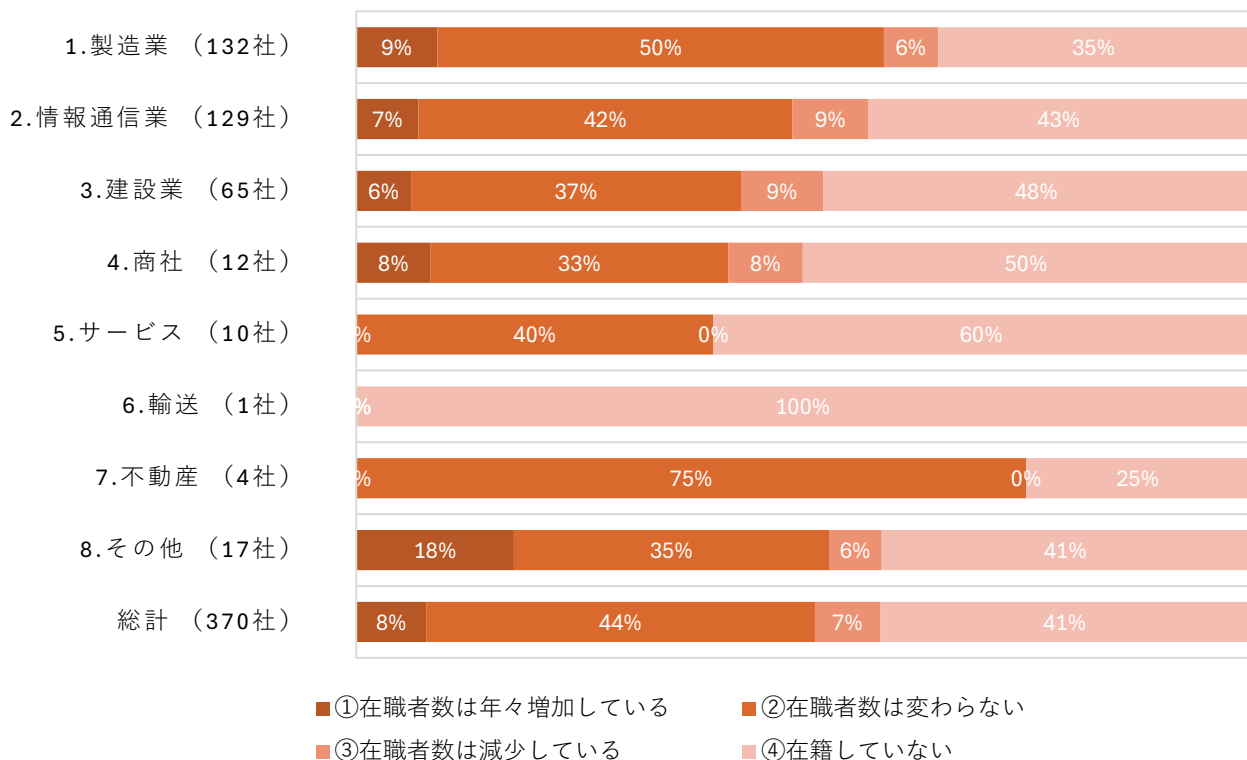
※回答数 370 社

【次世代研究者挑戦的研究プログラム（博士(後期)課程 SPRING）における社会ニーズ調査項目】

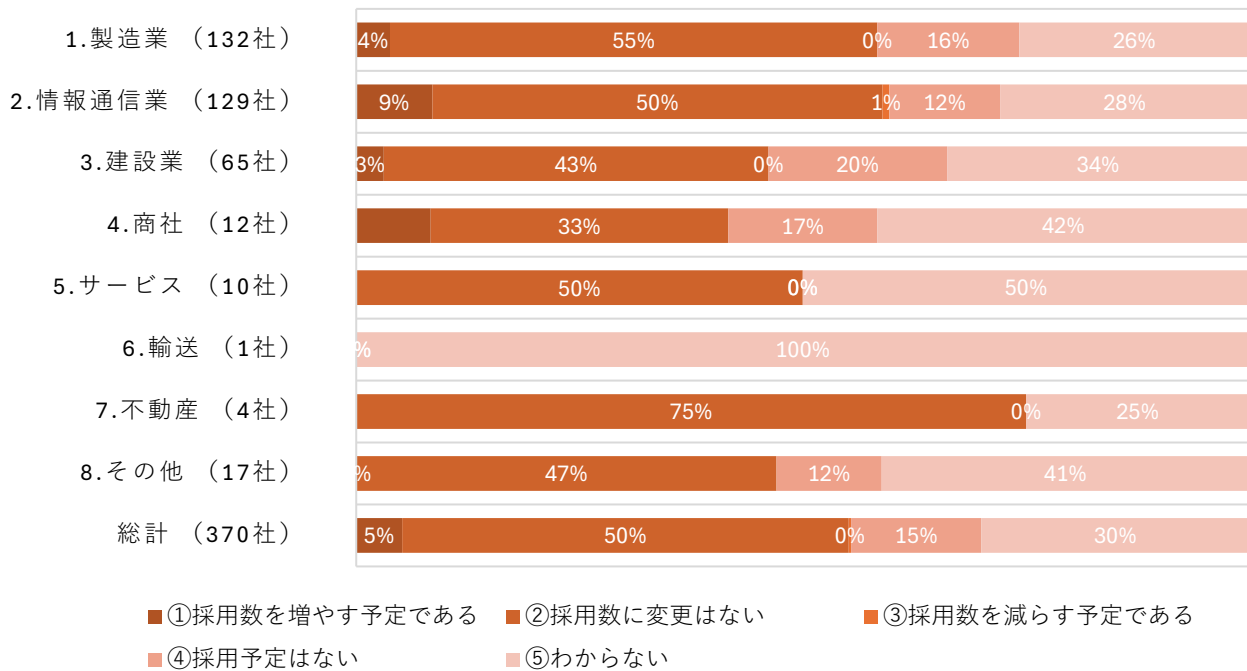
Q11. 過去5年の博士課程(後期)修了者の採用状況について教えてください。



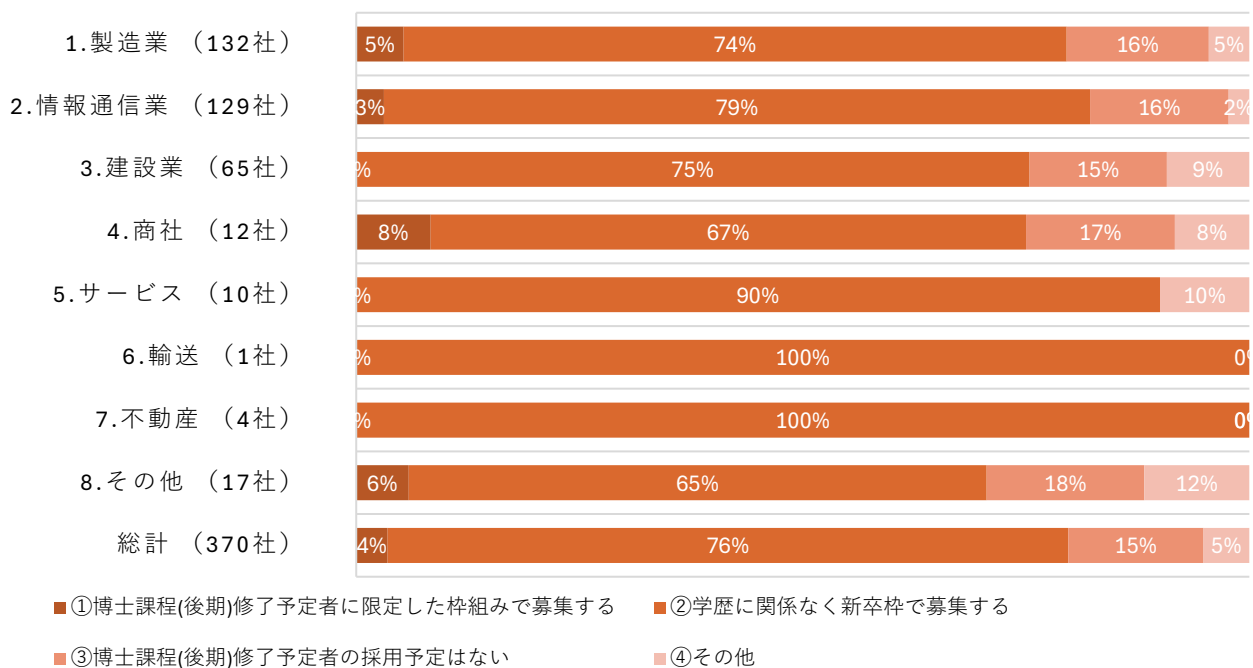
Q12. 博士課程（後期）修了者の在籍状況について教えてください。



Q13. 博士課程(後期)修了予定者の採用計画について教えてください。



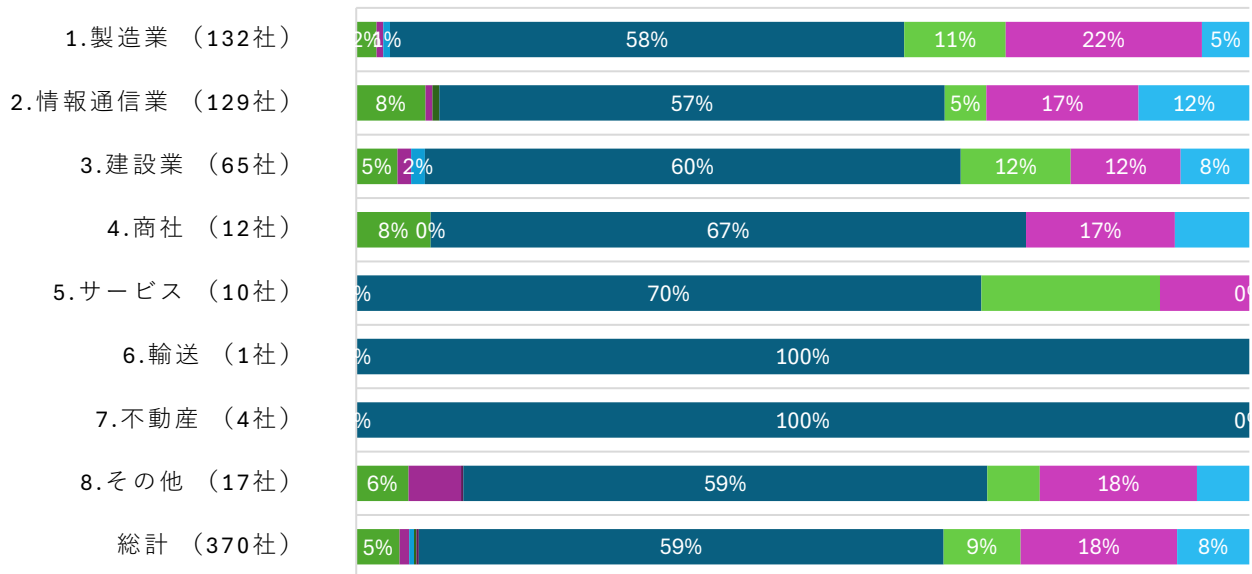
Q14. 今後の博士課程(後期)修了予定者の採用予定方法について教えてください。



その他回答の要約 (Copilot を活用)

- 現時点では採用計画や募集枠の多くが未定で、内容は都度検討・相談となっている。
- 学士・修士・博士すべてが対象で、原則は新卒枠だが希望やキャリアによりキャリア採用も可。
- 博士後期課程修了者は月給を優遇し、研究内容や能力・スキルに応じて個別対応。
- エンジニアは既存枠、データサイエンティストは限定枠で検討し年齢上限(28歳)などは要相談。

Q15. 博士課程(後期)のインターンシップ等の実施状況について教えてください。



- ① 文部科学省ジョブ型研究インターンシップを実施している
- ② 博士課程(後期)学生に特化して1-3日間程度受け入れる形式で実施している
- ③ 博士課程(後期)学生に特化して5-10日間程度受け入れる形式で実施している
- ④ 博士課程(後期)学生に特化して2週間 - 1か月程度受け入れる形式で実施している
- ⑤ 博士課程(後期)学生に特化して長期間（1か月以上）受け入れる形式で実施している
- ⑥ 学部・修士課程学生と同じ枠組みで受け入れる形式で実施している
- ⑦ 博士課程(後期)の受け入れについては個別に対応している
- ⑧ 博士課程(後期)学生は受け入れる予定はない
- ⑨ その他

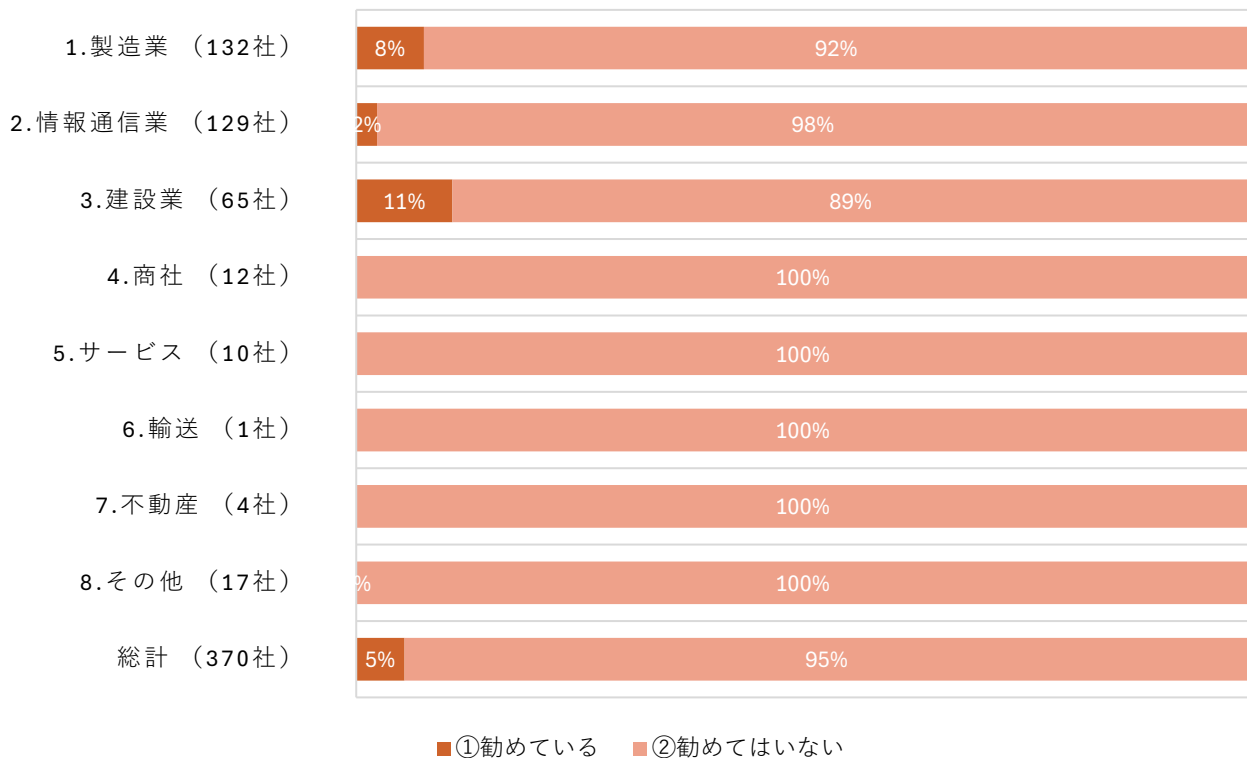
(回答社数)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	総計
1. 製造業	3	1	1	0	0	76	15	29	7	132
2. 情報通信業	10	1	0	1	0	73	6	22	16	129
3. 建設業	3	1	1	0	0	39	8	8	5	65
4. 商社	1	0	0	0	0	8	0	2	1	12
5. サービス	0	0	0	0	0	7	2	1	0	10
6. 輸送	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
7. 不動産	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
8. その他	1	1	0	0	0	10	1	3	1	17
総計	18	4	2	1	0	218	32	65	30	370

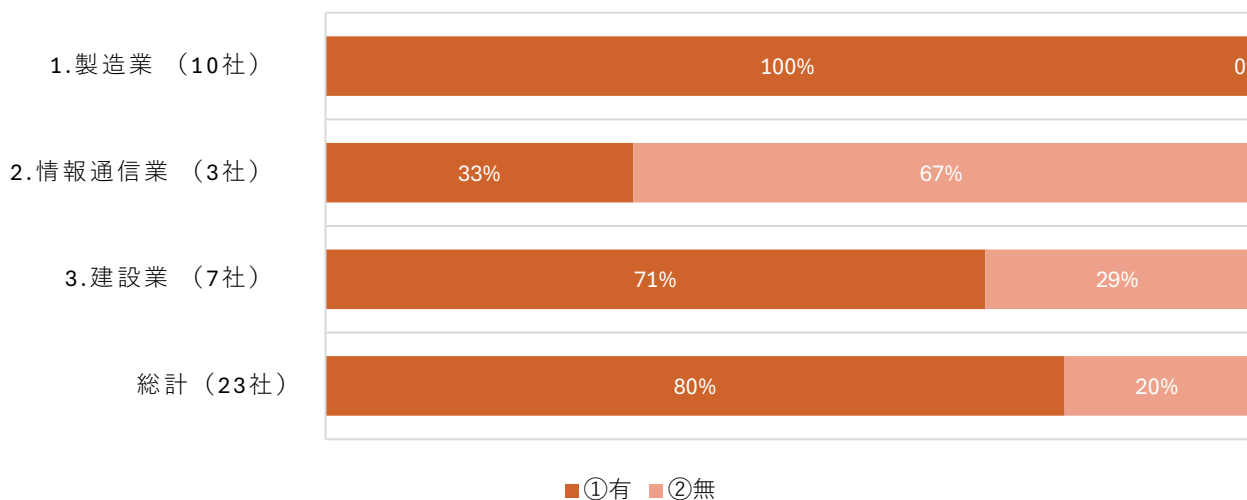
その他回答の要約（Copilot を活用）

- 博士課程向けにインターンシップを独立して実施している例はほとんどない。
- 一部では、学部・修士と同じ枠組みで1day 仕事体験やオンライン企画に参加可能としている。
- 社内見学のみ対応、または希望や状況に応じて個別・都度相談で対応するケースがある。

Q16. 社員に博士号取得を勧めていますか？



Q17. 社員の博士号取得をサポートする制度がありますか？



※上記以外の業種は無回答

Q18. 上記項目で「有」と回答された方は具体的な内容を教えてください（Copilot を活用し要約）。

- ・ 学費・入学金・講義費用などを会社が負担する制度が多く、博士号取得を金銭面で支援している。
- ・ 社会人ドクター取得を推奨し、通学や研究にかかる時間を就業時間扱いするなど時間的配慮がある。
- ・ 社内選抜や個別対応で運用されるケースが多く、一律の規定は設けていない場合がある。
- ・ 大学・研究機関への出向や共同研究を通じて、博士課程履修や研究活動を支援する制度がある。
- ・ 学会発表・論文投稿費用の支援など、研究成果の対外発信も対象となる場合がある。

Q19. その他、本学や本学学生についてご意見やご要望などがあれば自由にご記入ください。
(71 社より回答、Copilot を活用)

要約

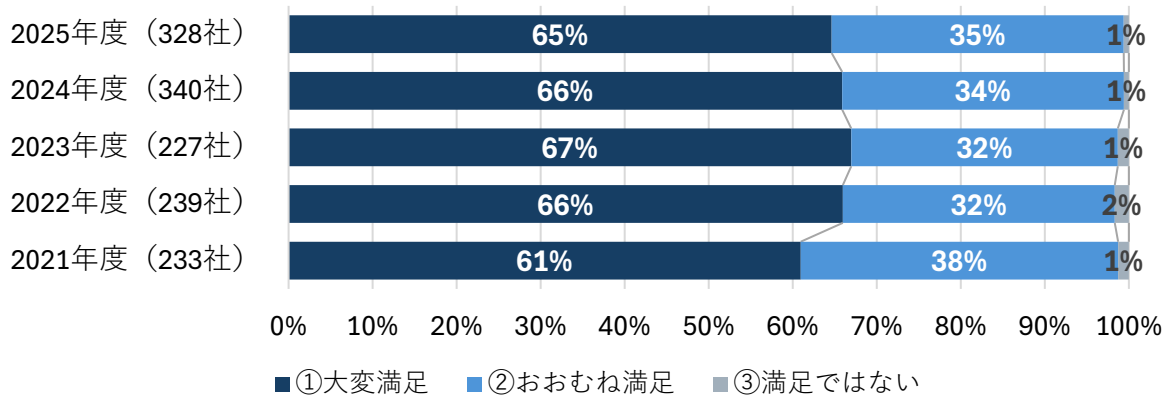
- 学生の真面目さ・素直さ・基礎学力の高さを高く評価しており、安心して採用できる。
- OB・OG が社内で活躍しており、継続的な採用実績や信頼関係が築かれている。
- 技術力や専門性に加えて、コミュニケーション力、主体性、協調性を今後さらに伸ばしてほしい。
- 学部生については、課題発見から解決までを自律的に行う経験（研究・実践活動）が重要。
- 日本語力（報告・連絡・相談）、探究心、粘り強さなど、社会人基礎力を評価する声も見受けられる。
- 課題として、おとなしく積極性が見えにくい、実践経験に差が出てきている、といった指摘もある。
- インターンシップ、会社説明会、学内イベントなど学生の接点を増やしてほしい（オンライン含む）。
- 今後も連携を強化し、継続的に優秀な学生と出会いたい。

経年比較

1. 採用した学生への満足度及びコミュニケーション能力の評価の経年比較（ ）内は有効回答社数

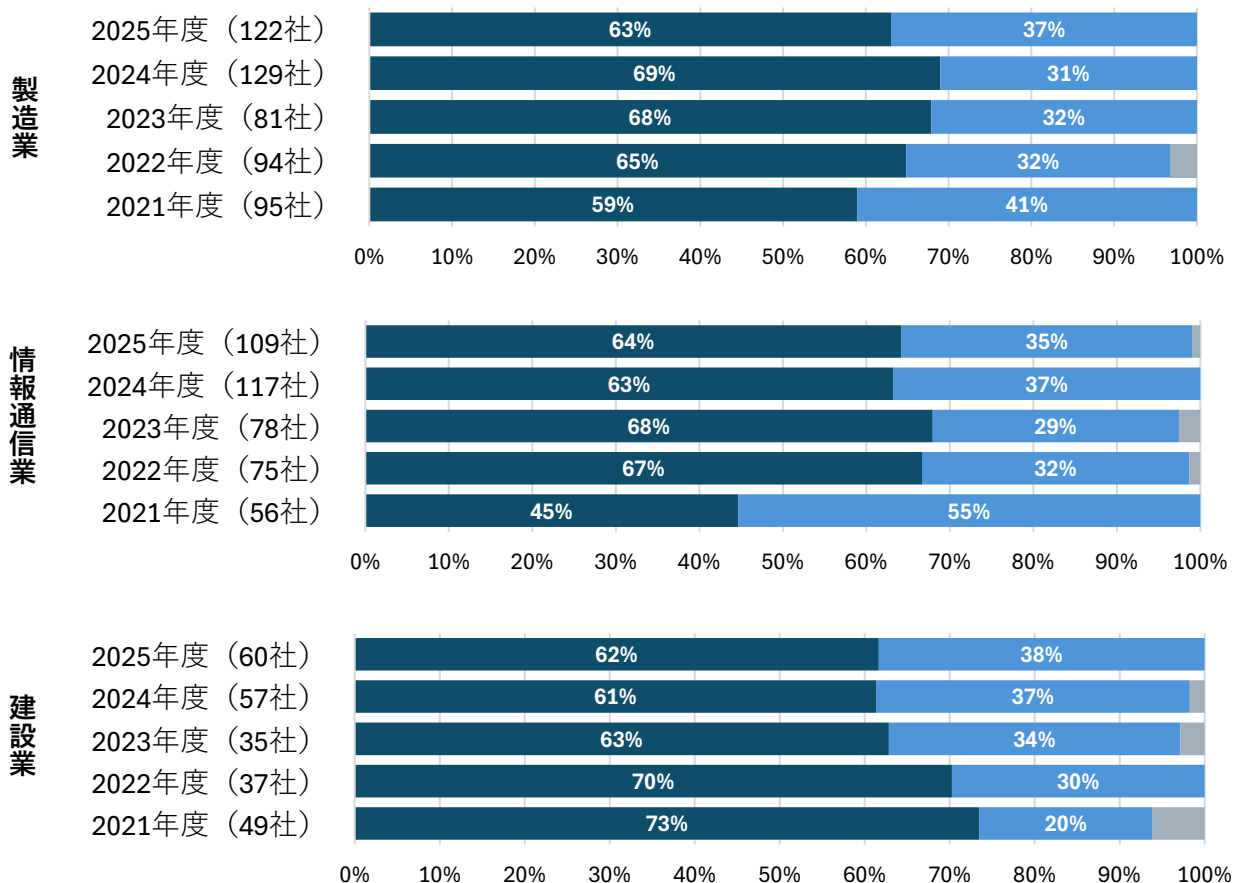
(1) 満足度の推移

満足度は、コロナ禍を機に一時低下したものの、その後回復しており、多少の変動はあるが概ね横ばいで推移している。



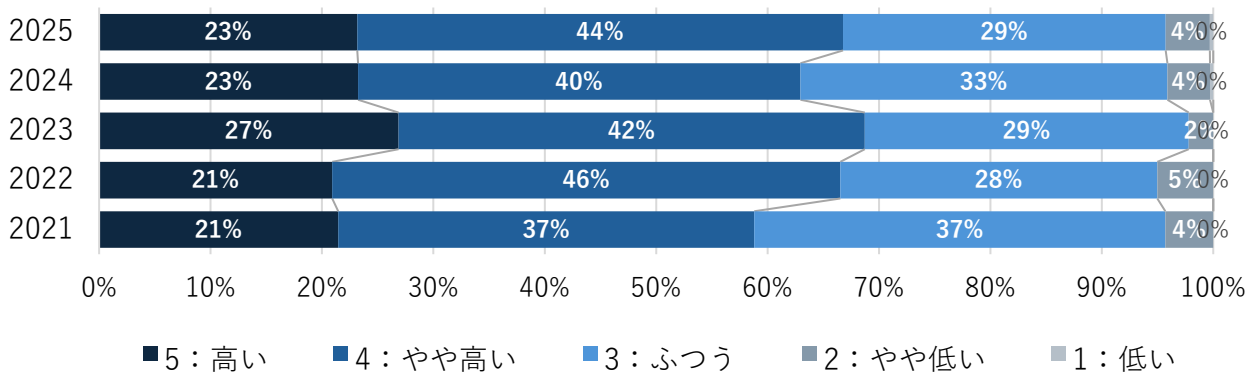
(2) 主な業界（製造業・情報通信業・建設業）の満足度の推移

昨年度と比較すると、情報通信業および建設業はそれぞれ 1%上昇している一方、製造業は 6%低下している。

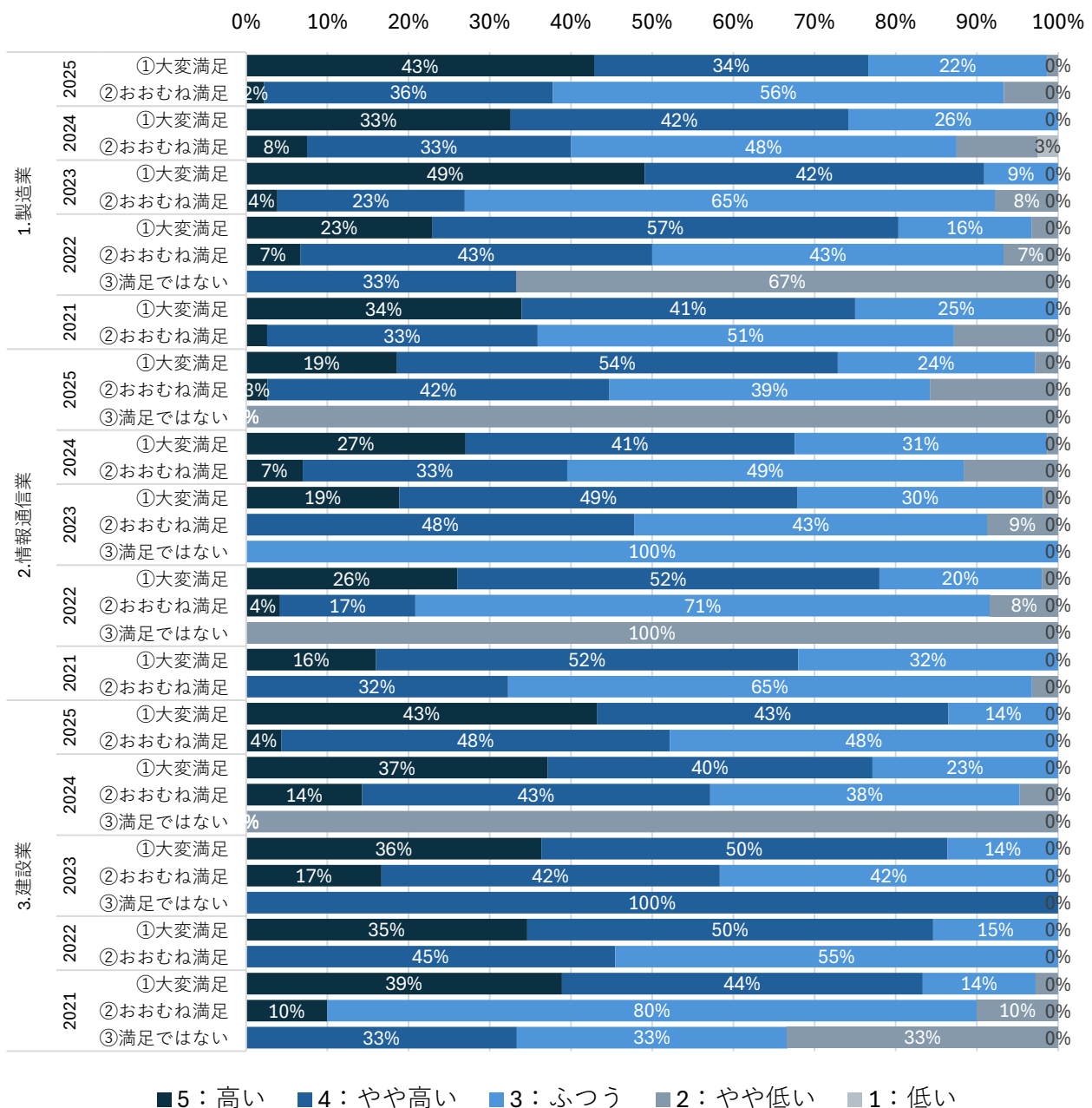


2. 採用した学生のコミュニケーション能力の評価の推移

(1) Q4 入社した卒業生への能力評価「コミュニケーション能力」(全体)



(2) Q7 本学卒業生の満足度と Q4 コミュニケーション能力の評価との相関 (主な業種を抜粋)



総 括

1.教育の質の保証(教育改善策)とキャリア・就職支援策について

2025年度の卒業生(学部・修士)への満足度は、昨年度に引き続き「大変満足」と「おおむね満足」を合わせると、多くの業界において極めて高い数値(9割以上)を維持している。特に、本学学生の固有の資質として高く評価されている「まじめで手堅い」「勉強熱心で向上心が高い」という点については、各業種における定量的評価にも明確に表れており、本学の「実学尊重」における基盤教育と「技術は人なり」を体現した専門教育が、産業界から根強い信頼を得ている成果の表れであると言える。

一方で、業種別動向に目を向けると、情報通信業や建設業において満足度の向上が見られる一方、主要な採用母体である製造業において「大変満足」の割合にやや低下(前年度比6%減)が見られるなど、産業構造の変化や企業側が求める人材像の高度化に伴う微細な変化を注視する必要がある。

社会人基礎力の一つとして挙げられる「コミュニケーション能力の育成」は、企業が「大学教育においてさらなる充実を求める項目」として依然として最上位に位置している。これに加え、「課題解決型教育(PBL)」や「より実践的な実験・実習」「グループワーク」への期待も高く、これらは企業が求める「主体性」や「問題解決能力」と直結している。初年次教育の柱である「東京電機大学で学ぶ」でのグループワークの実施をはじめ、全学的に推進しているハンズオン(体験型)教育やPBL系科目の質的向上は、これらの産業界からのニーズに応え得るものであり、今後もその取り組みをより深化させていく重要性が増している。

キャリア・就職支援活動においては、低年次からのキャリアマインド醸成や、キャリア支援・就職担当、外部講師であるキャリアアドバイザー・ジョブサポーターによるきめ細かな個別相談、学生同士のピアサポート機能である「キャリアカフェ」の活用等が、学生の「自己理解」と「問題解決能力・実行力」の向上を一定程度支えていると評価できる。今後も、業種ごとのニーズの変遷をいち早く捉え、効果的な進路支援策へと還元していく。

2.次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)の推進に向けた博士人材に関する社会ニーズ、また今後の課題について

今年度も引き続き、本プログラムの効果検証と推進を図るため、博士人材に対する社会ニーズ調査を併せて実施した。

アンケート結果からは、博士課程(後期)修了者の採用実績や明確な採用計画を保有している企業は依然として限定的であり、とりわけ博士課程に特化したインターンシップを独立して実施している例は極めて少ないという実態が浮き彫りとなった。しかしながら、自由記述等の要約(Copilot活用による分析含む)からは、「現時点では未定であるものの、希望や研究内容、個別の能力・スキルに応じて柔軟かつ個別に対応・検討する」という前向きな姿勢を示す企業が一定数存在することが確認された。また、社員の博士号取得を金銭面(学費・入学金負担)や時間面(通学・研究時間の就業時間扱い)で手厚くサポートする制度を持つ企業も散見され、高度専門人材への潜在的な期待や社会人ドクターの育成に対するニーズは確実に存在している。

本学としては、これら産業界の「個別対応・都度相談」という柔軟な姿勢を好機と捉え、博士人材の専門性や高い研究能力が企業のイノベーション創出にどう貢献できるかを具体的に提示していく必要がある。今後は、既存の学部・修士向けの枠組みを超え、博士課程(後期)の学生を対象とした企業とのマッチング機会の創出や、企業のニーズに即した柔軟なインターンシップの共同開発など、より先進的な産学連携キャリア支援のあり方を模索していくことが求められる。